

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

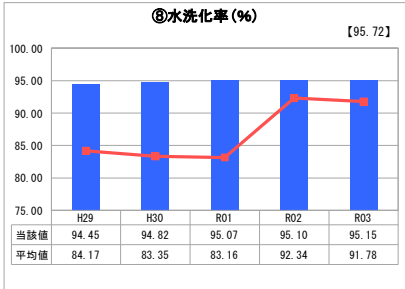
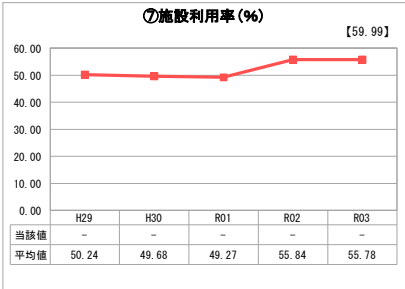
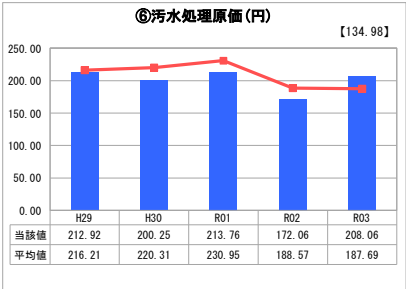
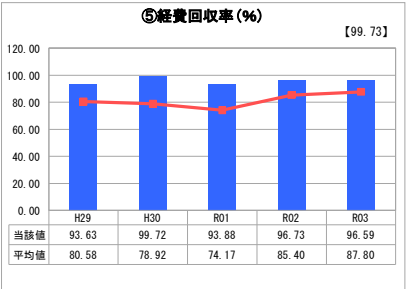
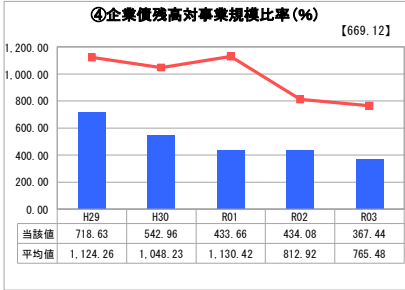
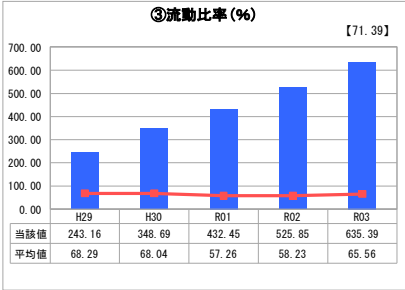
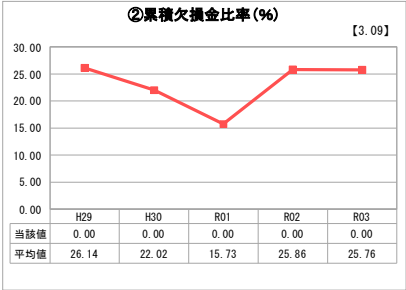
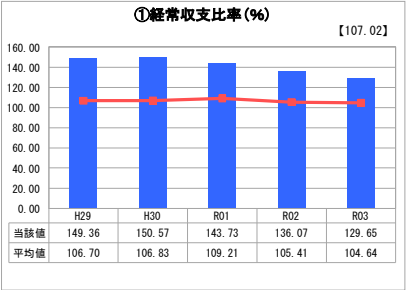
富山県 南砺市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡当たり家産料金(円)
-	75.18	32.12	77.44	3,960

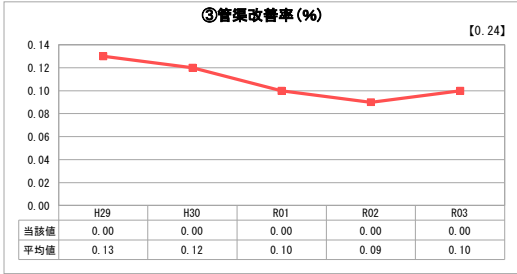
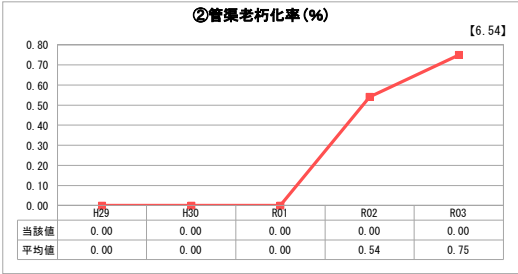
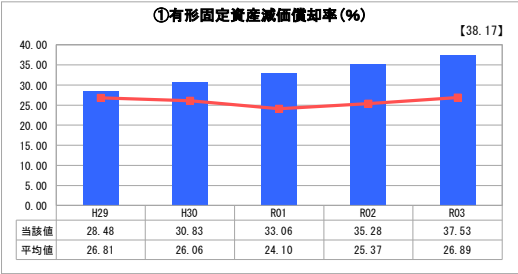
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
48,624	668.64	72.72
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
15,516	7.68	2,020.31

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、類似団体と比較しても、一定の経常収益を計上している。  
②累積欠損比率については、例年利益剰余金を計上しており、発生していない。当市は、複数事業の会計・経理を一体として行っており、下水道事業全体では、経常収支比率は105.6%、累積欠損比率は0.0%である。  
③流動比率については、当年度数値は類似団体と比較して高い数値を示しているが、下水道事業全体では31.5%と低く、短期的な債務に対する支払能力の低さが課題である。  
④企業債残高対事業規模比率については、管路等の整備がほぼ完了し、企業債（借金）の償還ピークが過ぎていることから、類似団体と比較して低い数値を示している。しかし、今後は管路の長寿命化により再び企業債が増加することが予想されることから、費用の平準化等による効率的な管理運営、投資・予算配分の適正化に努める。  
⑤経費回収率については、汚水処理費が増加したことにより、前年度に比べ減少している。  
⑥汚水処理原価については、汚水処理費が増加したことにより、前年度に比べ増加している。

### 2. 老朽化の状況について

当市における公共下水道事業は昭和46年から建設着手している。  
①有形固定資産減価償却費率については上昇傾向にある。令和3年度より耐用年数に達するものがあり、更新や長寿命化などの老朽化への対応が迫られる。（下水道会計全体での数値は、以下【全体総括】を参照のこと。）

### 全体総括

I. 現状分析  
1 下水道会計全体では、①経常収支比率は105.6%、②累積欠損比率は0.0%により、単年度収支が黒字、累積欠損は発生していない。また、③流動比率31.5%、④企業債残高対事業規模比率530.0%、⑤経費回収率85.8%となっており、今後不明水対策による汚水処理経費の減減が必要である。  
※不明水…処理する汚水のうち、管路内に侵入してきた地下水など料金収入に繋がらないもの。  
2 下水道会計全体での①有形固定資産減価償却率は37.2%であるが、将来の管渠等の更新について検討が必要である。  
II. 経営改善に向けた方向性  
令和3年10月に改定した経営戦略をもとに将来の人口減少による使用料収入の減少や老朽施設の更新を視野に入れ、不明水対策等により有収率を高める（収益の確保）。また、料金改定…その他財源の確保を検討することにより、経営の健全化に取り組む。  
※経営分析表の前提条件  
当市では決算統計区分の事業の会計・経営を一体とし、下水道使用料収入も一本化されている。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

経営比較分析表（令和3年度決算）

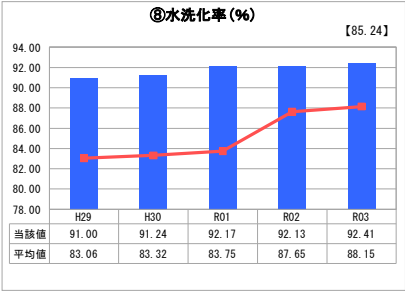
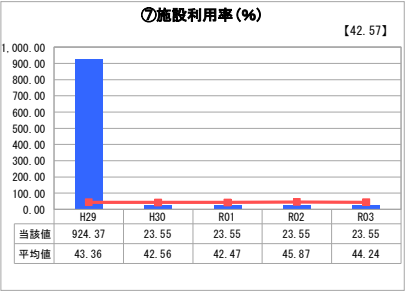
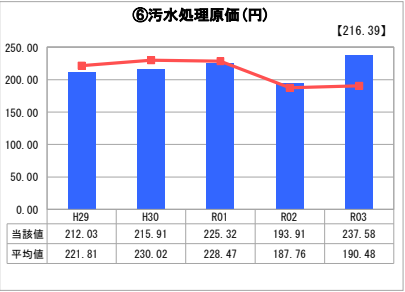
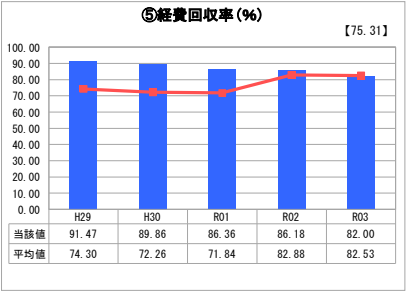
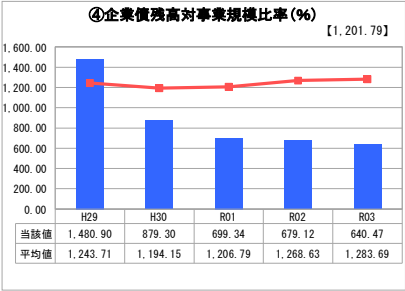
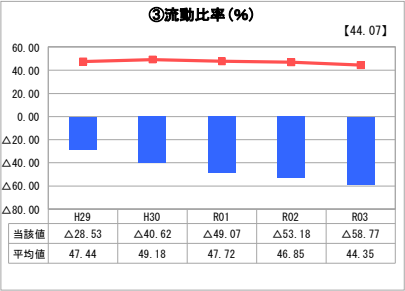
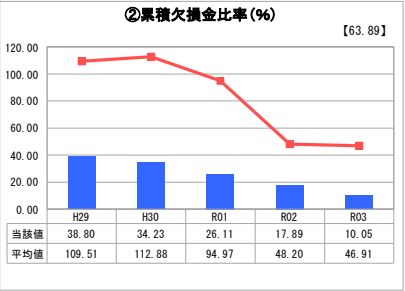
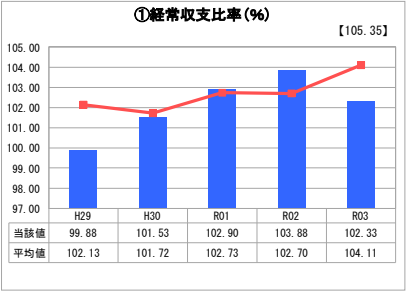
富山県 南砺市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	61.58	54.75	78.16	3,960

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
48,624	668.64	72.72
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
26,451	10.13	2,611.15

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、類似団体平均を下回っているが、前年度に引き続き黒字となっている。

②累積欠損比率については、当年度は前年度より減少している。

※当市は、複数事業の会計・経営を一体化して行っており、下水道会計全体での①経常収支比率は105.6%②累積欠損比率は0.0%である。

③流動比率について、当年度数値は類似団体と比較して低い数値を示しており、短期的な債務に対する支払能力の低さが課題である。また、年々減少傾向にあり、早急な対応が必要である。下水道会計全体での流動比率は31.5%となっている。

④企業債残高対事業規模比率については、管路等の整備がほぼ完了し、企業債（借金）の償還ピークが過ぎたことから減少傾向にあるが、今後は管路の長寿命化等により再び企業債が増加することが予想されるため、費用の平準化等による効率的な管理運営、投資・予算配分の適正化に努める。

⑤経費回収率については前年度より減少しているが、類似団体平均とほぼ同水準である。しかしながら、使用料のみで100%賄うことができていないため、適正な使用料収入の確保及び汚水処理費の低下に努める。

⑥汚水処理原価については、汚水処理費が増加したため、前年度に比べて増加している。

⑦施設使用率については、平成30年度より流域処理水量を計上しなくなったため、前年度と同様に低い数値を示している。

2. 老朽化の状況について

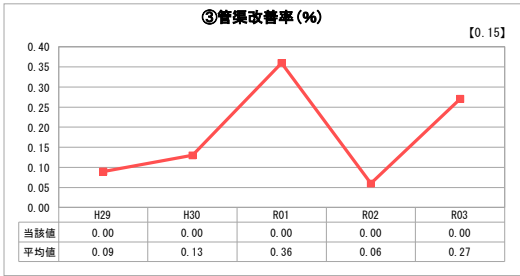
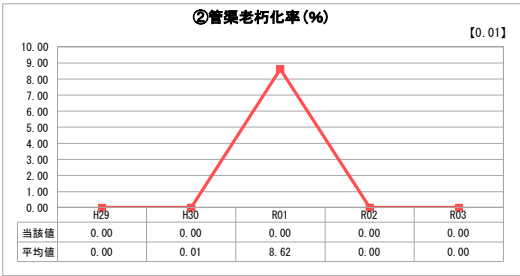
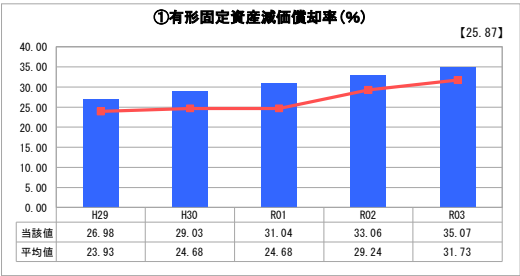
当市における公共下水道事業は昭和46年から建設着手している。

①有形固定資産減価償却率については上昇傾向にあり、類似団体平均値を上回っている。今後、更新や長寿命化などの老朽化への対応が迫られる。（下水道会計全体の数値は、以下【全体総評】を参照のこと。）

全体総括

※公共と同様

2. 老朽化の状況



※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

経営比較分析表（令和3年度決算）

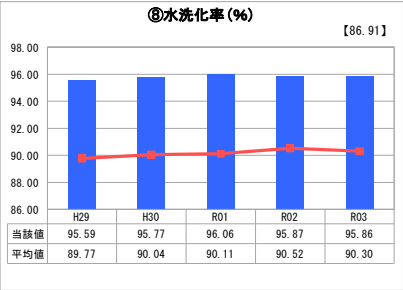
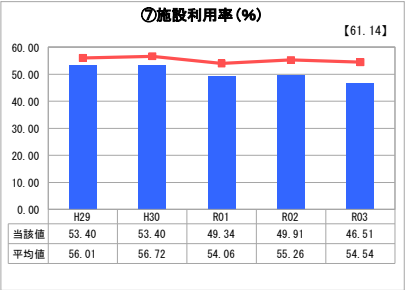
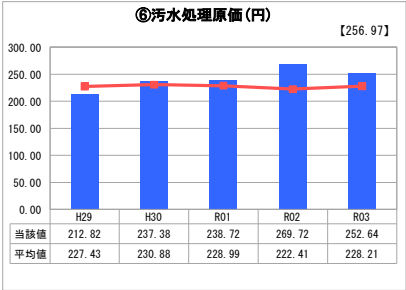
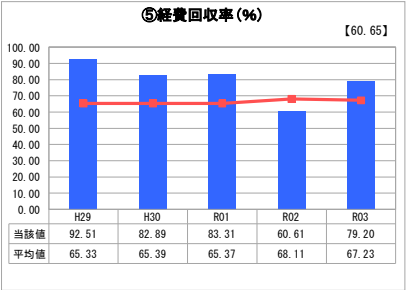
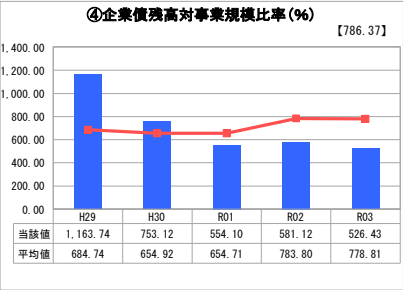
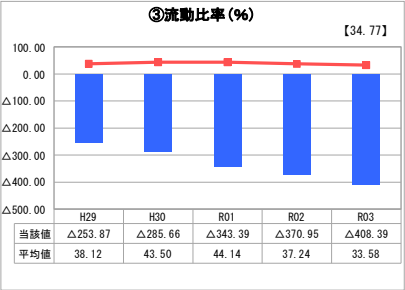
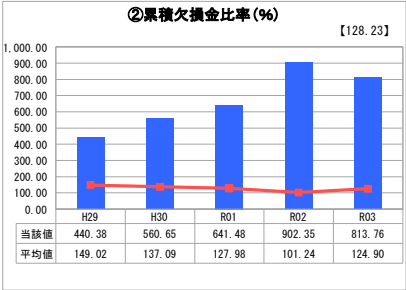
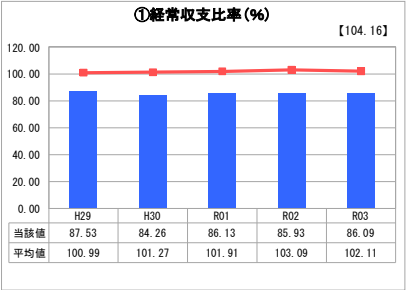
富山県 南砺市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	72.38	12.05	68.22	3,960

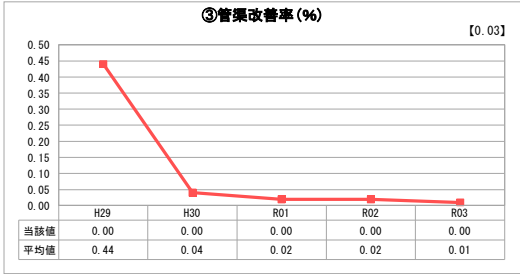
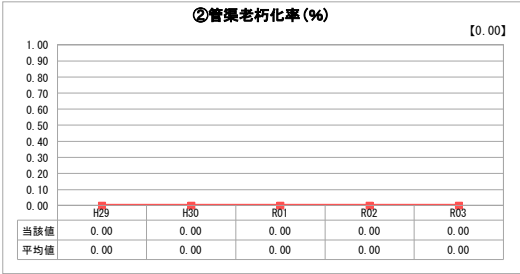
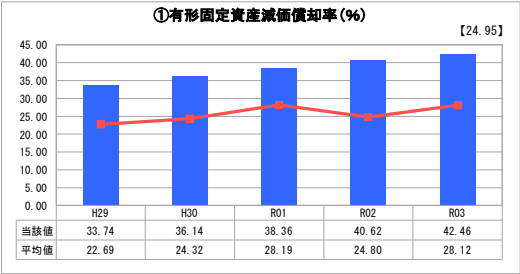
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
48,624	668.64	72.72
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,822	2.59	2,247.88

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、毎年類似団体よりも低い数値となっており、経常損失を毎年計上している。  
②累積欠損金比率については、類似団体より高い数値となっており、累積欠損金を継続して計上している。  
③流動比率についてはマイナス値となっている。これは処理場経費や減価償却費、起債償還利息等の経費負担が多額となっていることが要因であるが、その背景には山間部に集落が点在していることや、事業方針により排水人口が少ない地域であっても環境衛生面向上のために下水道の整備を行っている等の経緯があるもの。⑥についても同要因による。）  
※当市では複数事業の会計・経理を一体として行っており、下水道会計全体のバランスを取っている。平成22年5月使用分より使用料の改定と一般会計からの繰入の見直しを組み合わせて行った。（下水道会計全体での数値は、以下【全体総括】を参照のこと。）  
④企業債残高対事業規模比率については、管路等の整備がほぼ完了し、企業債（借金）の償還ピークが過ぎたことから、類似団体と比較して低い数値を示している。しかしながら、今後は管路の長寿命化等により再び企業債が増加することが予想されるため、費用の平準化等による効率的な管理運営、投資・予算配分の適正化に努める。  
⑤経費回収率については、下水道使用料が増加したため、前年度より増加している。  
⑦施設利用率については、当年度も前年度と同様に50%をきっている。また、類似団体と比較しても低い数値となっている。

2. 老朽化の状況について

当市における農業集落排水事業は昭和53年から建設着手している。法定耐用年数を経過した処理場、管渠等はない。  
①有形固定資産減価償却率については、増加傾向にあり、類似団体平均値を上回っている。  
（下水道会計全体での数値は、以下【全体総括】を参照のこと。）

全体総括

※公共と同様

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

経営比較分析表（令和3年度決算）

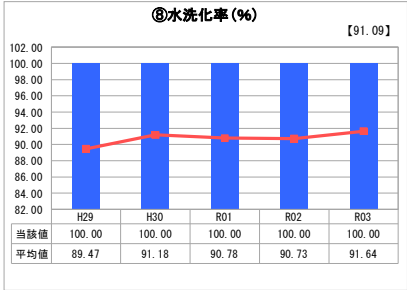
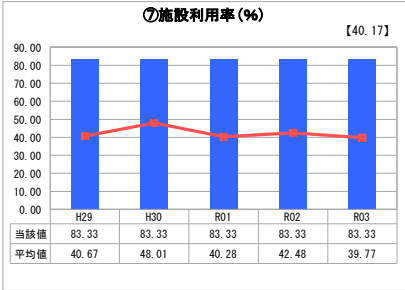
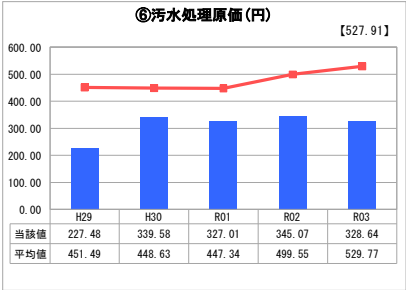
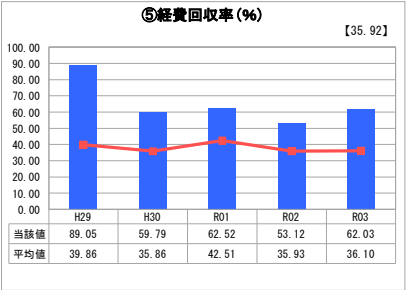
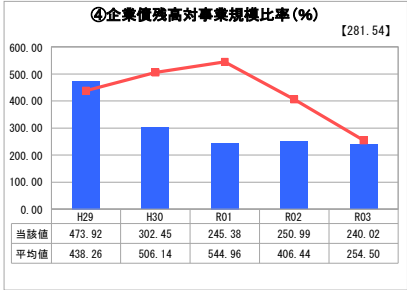
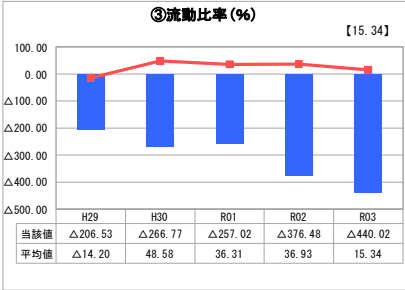
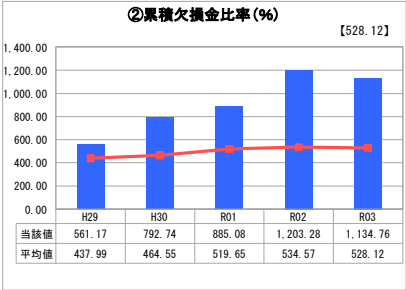
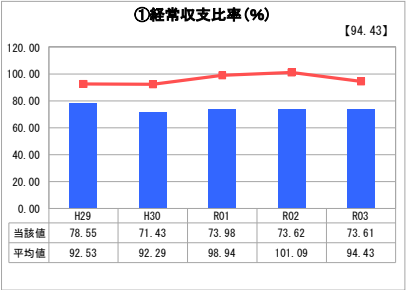
富山県 南砺市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	林業集落排水	G2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	80.40	0.18	66.74	3,960

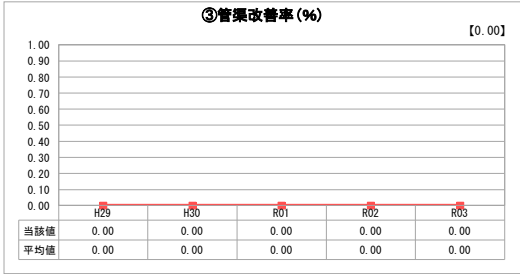
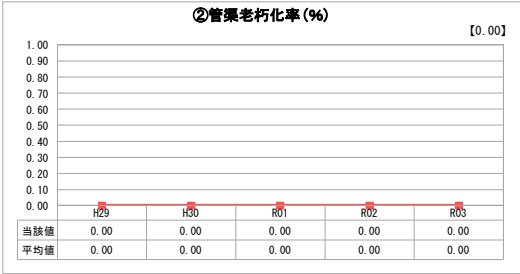
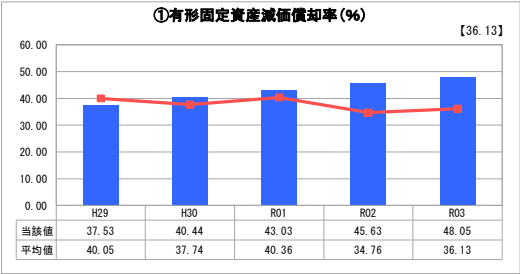
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
48,624	668.64	72.72
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
86	0.04	2,150.00

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、毎年類似団体よりも低い数値となっており、経常損失を毎年計上している。  
②累積欠損比率については、類似団体よりも高い数値となっており、累積欠損金を継続して計上している。  
③流動比率についてはマイナス値となっている。これは、処理場経費や減価償却費、起債償還利息等の経費負担が多額となっていることが要因であるが、その背景には山間部に集落が点在していることや、事業方針により排水人口が少ない地域であっても環境衛生面向上のため下水道の整備を行っている等の経緯があるもの。（⑥についても同要因による。）  
※当市では、複数事業の会計・経理を一体として行っており、下水道会計全体のバランスを取っている。平成22年5月使用分より使用料の改定と一般会計からの繰入の見直しを組み合わせて行った。（下水道会計全体の数値は、以下〔全体総括〕を参照のこと。）  
④企業債残高対事業規模比率については、管路等の整備がほぼ完了し、企業債（借金）の償還ピークが過ぎたことから、類似団体と比較して低い数値を示しているが、今後は管路の長寿命化等により再び企業債が増加することが予想されるため、費用の平準化等による効率的な管理運営、投資・予算配分の適正化に努める。  
⑤経費回収率については、使用料収入の増加により前年度と比べて増加している。  
⑧水洗化率については、処理区域内人口が小規模であることから、類似団体と比較し高い数値となっている。（下水道会計全体での数値は、以下〔全体総括〕を参照のこと。）

2. 老朽化の状況について

当市における林業集落排水事業は平成7年から建設着手している。法定耐用年数を経過した処理場・管渠等はない。  
①有形固定資産減価償却率については上昇傾向にあり、類似団体平均値を上回っている。  
（下水道会計全体での数値は、以下〔全体総括〕を参照のこと。）

全体総括

※公共と同様

※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

経営比較分析表（令和3年度決算）

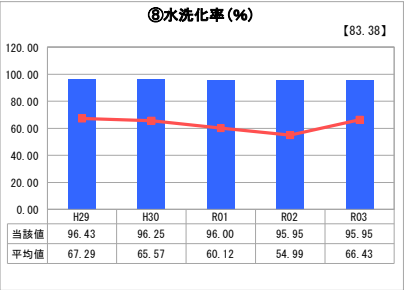
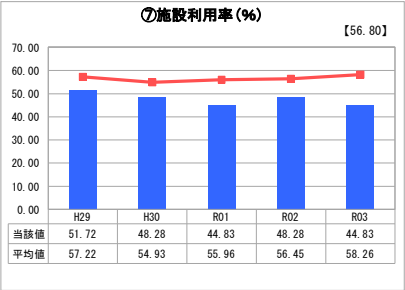
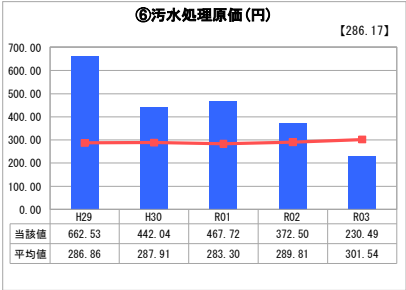
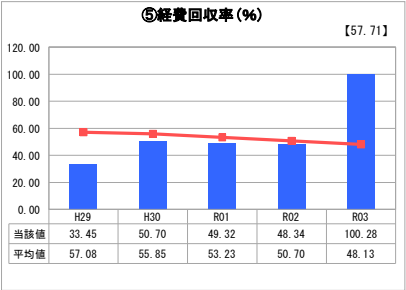
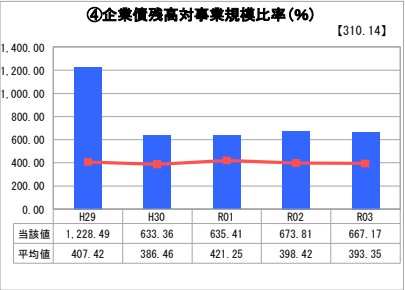
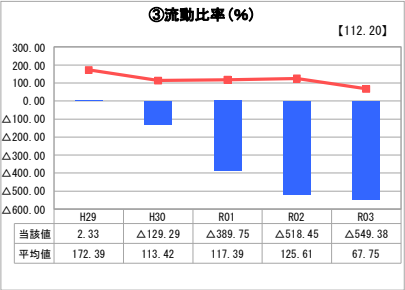
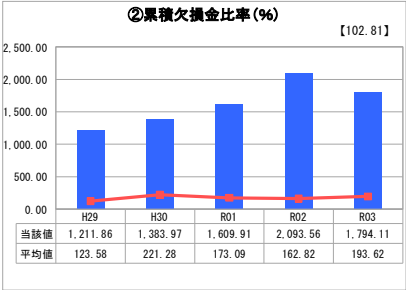
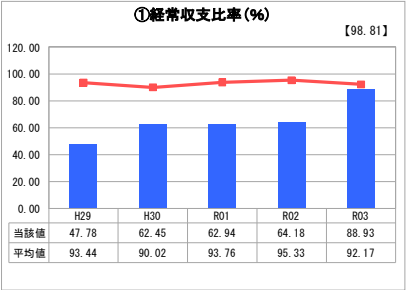
富山県 南砺市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	△13.68	0.15	100.00	3,960

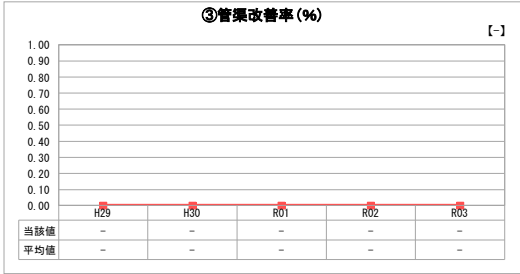
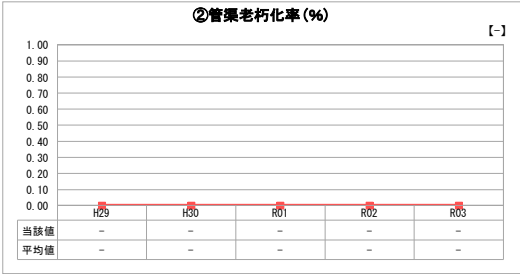
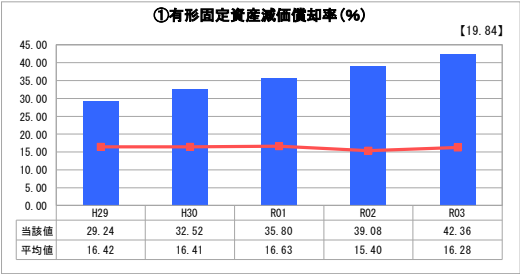
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
48,624	668.64	72.72
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
74	0.02	3,700.00

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、処理場費の減少により昨年と比べて増加しているが、類似団体より低い数値となっており、毎年経常損失を計上している。  
②累積欠損金比率については、下水道使用料の増加により昨年と比べて減少しているが、累積欠損金を継続して計上している。  
※当市では、複数事業の会計・経理を一体として行っており、下水道会計全体のバランスを取っている。平成22年5月使用分より使用料の改定と一般会計からの繰入の見直しを組み合わせを行った。（下水道会計全体の数値は、以下〔全体総括〕を参照のこと。）  
③流動比率については減少傾向にあり、前年度に引き続きマイナス計上となっている。また、下水道会計全体についても31.5%と低く、短期的な債務に対する支払能力の低さが課題である。  
④企業債残高対事業規模比率については、管路等の整備がほぼ完了し、企業債（借金）の償還ピークが過ぎたが、事業費に占める企業債の償還金が依然として高い値となっている。引き続き効率的な管理運営、予算配分の適正化に努める。  
⑤経費回収率については、下水道使用料の増加により、前年度に比べて増加している。  
⑥汚水処理原価については、下水道使用料の増加により、前年度に比べて減少している。  
⑧水洗化率については、処理区域内人口が小規模のため、類似団体よりも高い数値を示している。  
（下水道会計全体での数値は、以下〔全体総括〕を参照のこと。）

2. 老朽化の状況について

当市における特定生活排水施設事業は平成19年から建設着手している。法定耐用年数を経過した管渠等はない。  
①有形固定資産減価償却率は上昇傾向にあり、類似団体平均値を大きく上回っている。  
（下水道会計全体での数値は、以下〔全体総括〕を参照のこと。）

全体総括

※公共と同様

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

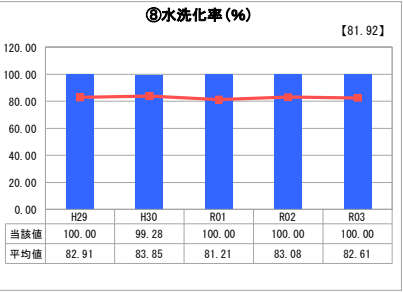
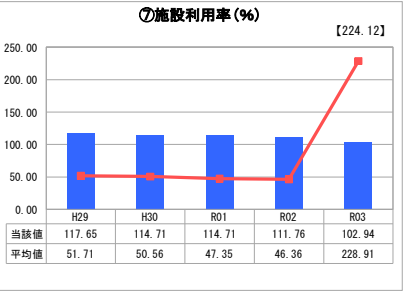
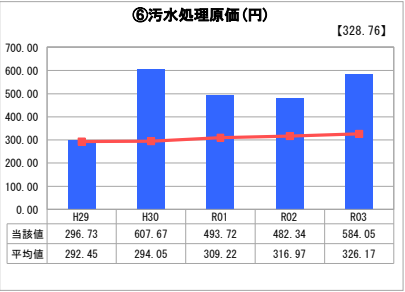
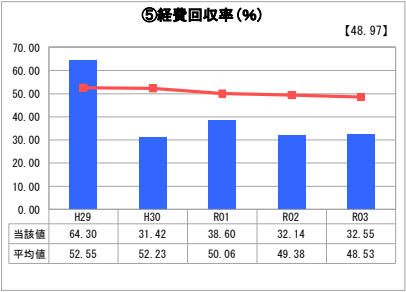
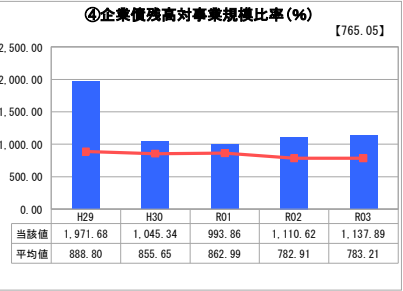
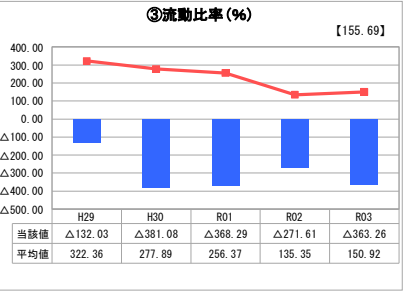
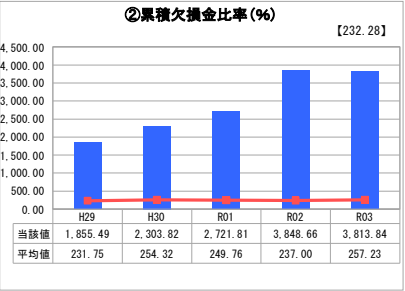
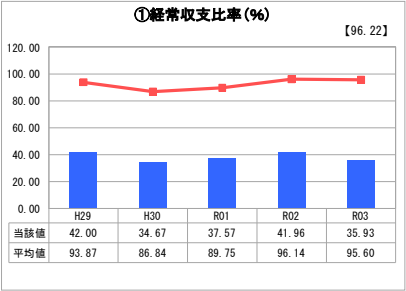
富山県 南砺市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	個別排水処理	L2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	△62.98	0.25	100.00	3,960

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
48,624	668.64	72.72
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
119	0.06	1,983.33

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、毎年類似団体よりも低い数値となっており、経常損失を毎年計上している。  
②累積欠損比率については、毎年類似団体よりも高い数値となっており、累積欠損金を継続して計上している。  
※当市では、複数事業の会計・経理を一体として行っており、下水道会計全体のバランスを取っている。平成22年5月使用分より使用料の改定と一般会計からの繰入の見直しを組み合わせを行った。  
（下水道会計全体での数値は、以下「全体総括」を参照のこと。）  
③流動比率については、クリエイタープラザを建設した平成27年度より引き続きマイナス計上となっている。  
④企業価値高対事業規模比率については、類似団体と比較して高い数値を示している。  
⑤経費回収率については、使用料収入の増加に伴い増加している。しかしながら、指標が100%を下回っているため、引き続き汚水処理経費の見直しと使用料収入の確保に努める。  
⑧水洗化率については、類似団体よりも高い数値を示している。  
（下水道会計全体での数値は、以下「全体総括」を参照のこと。）

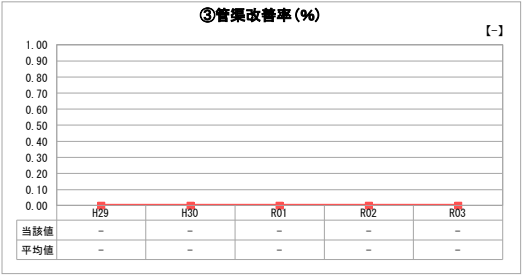
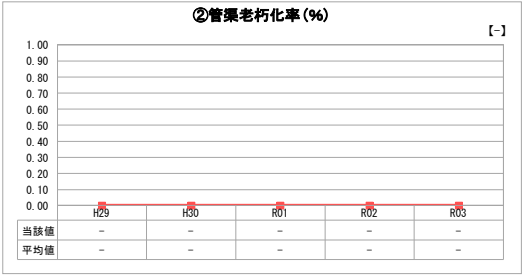
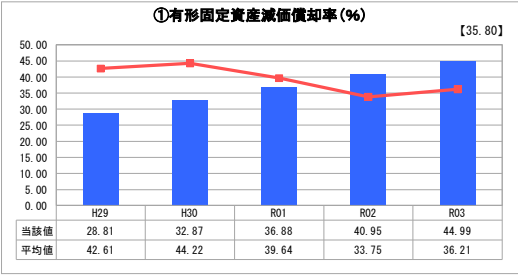
### 2. 老朽化の状況について

当市における個別排水処理事業は、平成10年から建設着手している。法定耐用年数を経過した管渠等はない。  
①有形固定資産減価償却率については上昇傾向にあり、類似団体平均値を上回っている。  
（下水道会計全体での数値は、以下「全体総括」を参照のこと。）

### 全体総括

※公共と同様

## 2. 老朽化の状況



※ 「経常収支比率」、「累積欠損比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。